

試験日 : 2026 年 2 月 21 日 (土)
入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)博士後期課程 春期試験
学部・研究科 : 社会学研究科 社会福祉学専攻
科目名 : 専門科目

解答又は解答例

問 1

欧米のポストモダンの流れを受け、社会によって物事が構成されるとの考えを基本とする社会構成主義の影響を受けて創設されたナラティブアプローチは、各種の支援専門職で活用され、ソーシャルワークでも活用されている。特にナラティブアプローチの始まりといわれる『物語としての家族』の著者のホワイトとエプストンが共にソーシャルワーカーであることから、ナラティブアプローチ自体がソーシャルワークのアプローチと考えることもできよう。

ナラティブアプローチは、利用者に対して知識的に優位に立つ専門家として対応するのではなく、互いに対等な人間が初めて出会うことを基本として、専門家が利用者のことを何もわかっていないという認識から始めるところに特徴がある。いわば、支援における平等性を重視している。この点でセルフヘルプグループやエンパワーメントとの近似性も感じられる。

こうした支援関係の前提のもとで、ナラティブアプローチでは、問題を継続させてきたドミナントストーリーを明確にし、人間に問題を設定している立場から、問題を人間から切り離す外在化によって、問題が問題であるというナラティブアプローチの視点をもとに、オルタナティブストーリーを見出して問題を解決する。この意味や設立経緯から、クリニカルソーシャルワークや家族療法で活用されることが多いが、ソーシャルワークにおいては、ナラティブアプローチの視点をソーシャルグループワークやコミュニティワークに応用している。いずれも平等な関係を重視し、グループやコミュニティ全体の物語をも取り上げる必要性が考察されている。

(問 1 の解答は 670 文字)

問 2

ナラティブアプローチは物語という個々の事例の特殊性を重視するゆえに、ソーシャルワークの個別性を大切にすることは評価できるが、普遍性や合理性に弱い点に注意すべきである。したがって、ソーシャルワークの視点から考えると、ナラティブアプローチを活用するに際しては科学的合理的データの活用を並行して考えていくことが、福祉の分野によっては避けて通れないといえよう。これはナラティブアプローチ

には客観的な効果測定の困難さがあるということでもある。

また、ナラティブアプローチは、物語という言語や主観に重きを置くので、物理的支援や制度的支援などの環境支援をも包括的に視野にいれたシステム理論やエコロジカル理論に基づくソーシャルワークを批判する。しかし、そのことは逆に、こうしたソーシャルワークにおいて重要な環境支援の側面を見失う危険性を秘めているので注意が必要である。

さらには、ナラティブアプローチが極めて学際的アプローチである家族療法から発展したので、ナラティブアプローチをソーシャルワークで活用することはソーシャルワークの独自性を打ち出しにくくする。よって、専門性の維持という観点から見ると、この点にも注意を払い、今後の検討が必要である。（問2の解答は516文字）